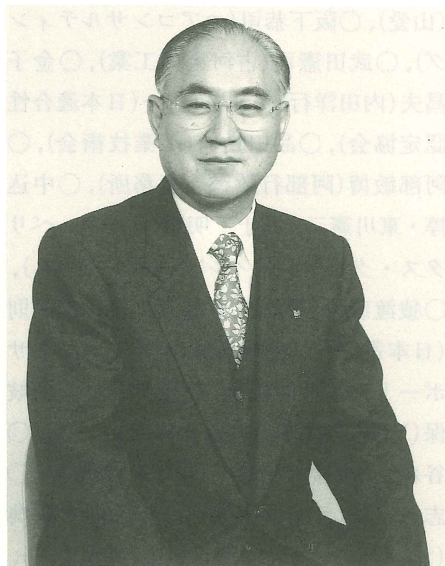


JSQC ニュース No.224

発行 社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (株)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話 03 (5378) 1506 FAX 03 (5378) 1507 ホームページ: <http://jsqc.i-juse.co.jp/> E-mail: jsqcapp@a1.mbn.or.jp

2000年度デミング賞本賞受賞者 本学会会長 前田又兵衛氏に決定

東京理科大学 狩野 紀昭



10月17日に開催されたデミング賞委員会で、本年度のデミング賞本賞を本学会会長 前田又兵衛氏に授賞することが決まりました。授賞式は11月14日に行われます。

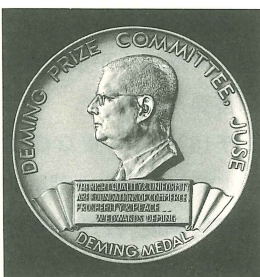
私たちの学会の会長がデミング賞本賞を受賞されることになったことを、学会員一同、心よりお祝い申し上げたいと思います。

デミング賞委員会から発表された選考理由は次の通りです。

「選考理由」

前田又兵衛博士は、前田建設工業株式会社社長の社長および会長として同社の全社

的品質管理の実践に努力され、多大の成果を挙げ経営革新を果たされました。これにより、同社は1989年度デ



ミング賞実施賞および1995年度日本品質管理賞を受賞されました。さらに前田グループ企業にもTQMの導入を薦め強力な指導力を発揮し、前田製作所、フジミ工研、ミヤマ工業がデミング賞実施賞を受賞するのに貢献されました。また、日本品質管理学会会長、日本規格協会・TQM標準化調査研究委員会委員長、日本科学技術連盟・品質管理シンポジウム組織委員、トップマネジメント品質管理大会企画委員長などを務めるとともに、多くの著作や講演を通じて、国内はもとより国際的に品質管理の発展・普及・啓蒙に尽力され、さらに日本建設業団体連合会会長、日本経営者団体連合会常務理事、「ものづくり懇談会」委員などとして、特に企業経営者へTQMの重要性を積極的に働きかけられました。

以上、氏の業績はデミング賞本賞を授与されるに十分なものであります。」

前田会長は、1999年度の日本品質管理

学会副会長として、そうして、2000年度の日本品質管理学会会長として、一日本の品質管理の研究開発推進のために、新風を吹き込み、活性化にご尽力されれるとともに、一積極的に社会へ発信していくという点を含めて多大な貢献をされてこられました。

具体的には、次の通りです。

(1) 社会的に大きな関心と呼んだ事故に対しての緊急シンポジウム、日本が立ち後れている医療の分野へのTQMの普及をめざすシンポジウム等の開催にあたってリーダシップの発揮

(2) 内閣総理大臣主催した「ものづくり懇談会」に日本品質管理学会会長として参画し、日本の産業競争力再生へ向けての積極的に発言ならびに具体的な提言、ならびに、前田記念工学振興財団に働きかけ、日刊工業新聞等のマスコミを通じての品質管理についての社会へ向けた発信の実現

前田又兵衛会長は、10月28日の年次総会をもって、会長を退任され、顧問に就任されます。この一年間のご尽力に対して感謝しつつ、今後も顧問として、高所からのご指導をお願い申し上げます。

本当に、おめでとうございます。

『戦略の方針管理におけるコア・コンピタンスの獲得を最大にする組織形態』

畠中伸敏氏(キヤノン(株))、長田 洋氏(山梨大学)

2000年度デミング賞授賞式開催
本賞 前田又兵衛氏に、実施賞 4社が受賞

日本科学技術連盟は、2000年度のデミング賞および日経品質管理文献賞受賞者を発表し、授賞式が11月14日東京大手町の経団連会館で挙行された。

□デミング賞本賞一前田又兵衛氏 前田建設工業(株)代表取締役会長

□デミング賞実施賞一金秀アルミ工業(株)、サンデン物流(株)、サンワテック(株)、(株)ジーシー

□日経品質管理文献賞○「国際競争力の再生ーJoy of Workから始まるTQMのすすめー」吉田耕作、○「サイエンスSQCビジネスプロセスの質変革」日本規格協会名古屋QST研究会編 代表 天坂格郎、○「すぐわかる国際標準マネジメント読本ISOを理解するための50の原則」矢野友三郎、○「HACCP実践講座こうすればHACCPシステムが実践できる(第1巻〜第3巻)」細谷克也監修、

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティーレポート、レター、QCサロンです。

「品質」誌編集委員会

私の提言

品質管理に基づくIT革命

電気通信大学 教授 鈴木和幸

現在我が国は、安全性・空洞化・失業率をはじめとする種々の難問をかかえている。これらの背景には、バブル崩壊後におけるコスト偏重、教育の軽視、IT革命への立ち遅れなどが挙げられよう。

一方、海外に目を向けると、例えば99年のIT貿易伸び率(輸入ベース:対96年比)は、アメリカ19.9%、東アジア24.5%、EU17.7%、そして日本は-1.2%である。また、東アジアからアメリカへの貿易輸出額は、90年13兆円が98年には28兆円と2倍以上の伸びを示しているのに対し、日本からアメリカへは微増にすぎない。ITにその解決を見出そうとする方向は賛成であるが、IT革命の目的と手段の混同を危惧する。

パソコンを使うことがIT革命? e-mailを使うこと? 時間と距離を無くすこと? これらは全て手段であり目的ではない。距離と時間を無くし、顧客の声と市場情報を営業部門だけでなく、企画・R&D・設計・生技・製造・購買・保全サービス等の全部門が直接に体感し、そしてこれらの全部門・全階層が互いに効果的につながり、顧客一人一人を重視したよりきめの細かい品質保証を行うことが大きな目的と考える。

QCの基本に「事実に基づく管理」がある。IT、特にデータベースの活用は有用と考えられるが、データの量は莫大であるが、ややもすると玉石混交の山を築くのみとなる。現場を知り、データの取り方・分析能力を磨くことなしにIT革命は難しい。ITによる生産革命を行うためには十分な工程解析が必須である。情報化には業務改革が前提である。また、電子商取引やNet通販による中抜き現象が失業率をさらに悪化させるならこれこそ本末転倒である。

IT革命本来の目的は人間社会を豊かにし、誰もが情報化社会の恩恵を受けることにある。「人を守り、育て、活かす」人間尊重を忘れてはならない。以上に示すごとくIT革命には品質管理の基本を実行することがその前提と考える。21世紀のIT時代における基本的インフラこそ、品質管理にあると思われる。

米虫節夫、角野久史、富島邦雄 編著
(文献賞受賞3点は日科技連出版社発行)

関西支部Eメールアドレス変更

a-kobayashi@juse.or.jp

第30年度新役員決まる 一新会長に狩野紀昭氏一

去る10月28日に開催された第30回通常総会において、第30年度の新役員が選出承認された。

会長 狩野紀昭(東京理科大学教授)
副会長 山岡建夫(JUKI(株)会長)
副会長 圓川隆夫(東京工業大学教授)
理事 上石和信(アスモ(株)取締役)
太田和宏(豊田紡織(株)会長)
大藤 正(玉川大学助教授)
長田 洋(山梨大学教授)
澤田善次郎(椋山女学園大学教授)
司馬正次(MIT客員教授)
鈴木和幸(電気通信大学教授)
田部信雄(松下電子部品(株)部長)
中泉 純(日本規格協会課長)
中條武志(中央大学教授)
永田 靖(早稲田大学教授)
福丸典芳(株)NTT-MEコンサルティング取締役)
光藤義郎(JUKI(株)次長)
三田征史(日本科学技術連盟事業部長)
山崎正彦(コニカマーケティング(株)監査役)
山田 秀(東京理科大学助教授)
由井 浩(龍谷大学教授)

監事 山本勝己(株)NTTデータ室長)
大滝 厚(明治大学教授)

顧問 前田又兵衛(前田建設工業(株)会長)

関谷節郎氏、名誉会員に 研究奨励賞、品質技術賞表彰

また同通常総会において、関谷節郎氏が名誉会員に推薦され、第29年度研究奨励賞1件、品質技術賞3件の受賞および表彰が行われた。

【研究奨励賞】

『マネジメントシステムの評価・診断法に関する一考察』

荻野誠哉氏(中央大学 大学院理工学研究科 現(株)味の素)、
名取 剛氏(中央大学 大学院理工学研究科 現 日本電気(株))

【品質技術賞】

『マルチメディアサービスの基礎研究ー個人・家庭ニーズの基礎理論に関する研究』
金子龍三氏(日本電気テレコムシステム(株))
『An Application of QFD to System Integration Test』

木原隆美氏(アンダーセンコンサルティング)、
新藤久和氏(山梨大学)、吉澤 正氏(筑波大学)

近藤良夫先生 勲二等旭日重光章を受章

京都大学名誉教授・工学博士の近藤良夫先生が、平成12年度秋の叙勲において、標記の勲章を受章されました。

先生のTQM分野におけるご活動は、デミング賞本賞受賞(1971)、本学会会長(1992)、同関西支部初代支部長(1991)、International Academy for QualityのPresidentを経て現Chairman、ASQのGrant Award(1976)およびLancaster Award(1998)など著名であります。さらに、京都大学学士山岳会のチベットの高原学術登山隊長をされたり、モチベーション研究会を主宰されTQMにおける人の問題の重要性を早い時期から強調れるなどの国内・海外を含めた幅広いご活躍が、今回の慶事に連なったのではないかと拝察します。先生の益々のご活躍を期待すると共に、心よりお祝い申し上げます。



第262回事業所見学会(本部)ルボ
NTT武蔵野研究開発センタ

去る6月27日(火)第262回事業所見学会がNTT武蔵野研究開発センタにて行われ、60名近くが参加、「情報流通社会に向けたNTTの研究開発」のシーズの位置付け紹介とその研究成果の一部である展示の実演を見学させていただいた。

NTT武蔵野研究開発センタは、持ち株会社となったNTTの全国で6つあるR/D所在地の一つで、三鷹の北側に広大な規模で位置し、昨年新装となった研究成果の展示場を持ち、基礎研究としては、ほぼ完成し、数年後に実用化される成果をデモにより実感できるようになっている。展示項目は70あまりに及んでいる。

当日は、まず、特別のご厚意によりセンタに所属する生活環境研究所長の中埜氏よりNTT研究開発の方向と概要について講演いただいた。

過去は、「人」と「人」をつなぐことからスタートした電気通信網が、今では「人」と「人」だけではなく「人」と「情報」、あるいは「情報」と「情報」をつなぐ情報通信ネットワークとして生まれ変わりつつある。「情報」がネットワーク上を「流通」する社会の実現に向けた研究開発に取り組んでいるとのことであった。

展示コーナー見学は、7つの展示項目を丁寧な実演で体験した。

- 1) 高度情報配信プラットフォーム：大容量コンテンツを低コストでどこでも配信できる
- 2) 次世代IPネットワーク：インターネットプロトコルの高度化により、通信の品質保証やセキュリティ、を実現した発信手段の高速化。
- 3) NTT電子マネー：ICカードを利用した理想型電子マネーで、インターネット上での安全な電子決済
- 4) 難聴者向け補聴ヘッドホンシステム
- 5) アクセス速度によるインターネット利用感
- 6) 超臨界水によるプラスチックリサイクル

第30年度役員役割分担表

◎委員長 ○副委員長

30周年記念事業 ◎山岡 ○長田 ○光藤

研究開発 ◎山岡 ○大藤

編集 ◎中條 ○長田 ○福丸

事業(行事)◎長田 ○大藤 ○光藤

広報 ◎鈴木 ○山崎

国際 ◎司馬(代理 狩野) ○山田

標準 ◎福丸 ○永田

長期計画 ◎狩野 ○山岡

選挙管理 ◎狩野 ○山岡

庶務 ◎山田 ○鈴木

会員サービス(資格審査) ◎山崎 ○鈴木

規定 ◎中泉 ○光藤

会計 ◎三田 ○山田

最優秀論文賞 ◎圓川 ○中條

研究奨励賞 ◎圓川 ○中條

品質技術賞 ◎山岡 ○中條

品質管理推進功労賞 ◎狩野 ○山岡

品質問題発言方法検討

特別委員会(仮称) ◎圓川

倫理規定検討特別委員会(仮称) ◎大藤

中部支部 ◎太田 ○上石 ○澤田

関西支部 ◎栗山 由井 田部

7) 超高精細大画面ディスプレイ

それぞれ、新技術を目の当たりに体感し有意義であった。

質疑応答で、年輩の参加者が「ここを15年前に見学したが、当時の技術はすべて実用化になった。今回も期待する。」とっておられたのが印象に残った。

山内恭久(コニカ)

第75回講演会(関西支部)ルボ

第75回講演会は、「戦略の方針管理の最新動向」と題して、平成12年7月18日(火)、天満研修センター(大阪)で、長田洋氏(山梨大学 循環システム工学科教授)、作田稔氏(コニカ株式会社 経営戦略室課長)のお二人に、これまでの方針管理に加え、経営戦略の立案から方針策定までの方法論を統合した参加型の新しい方針管理について、理論と実践事例面より説明していただいた。

テーマへの関心が高く、100名近くの参加者があり、質疑も活発であった。

【講演1】

「戦略の方針管理の最新の理論と方法」

山梨大学工学部循環システム工学科 教授 長田 洋氏

経営に求められる戦略の方針管理の要点と新しい流れについて、以下の紹介があった。

- 経営の立場での戦略の方針管理は経営のプロセスでリソースを活かして、如何に顧客の価値を生むかである。
- 新しい流れの主体は変化への対応である。ビジョンの見直しを常にやることが重要であり、環境変化に対応した戦略を立てるのがポイントである。大切なのは、リソースを如何に良くするかであり、組織・人の活力向上とロードマップなどを使った多面的な対話を重視している。

※広く知恵を集めることが出来るミドルも参画した自己革新性のある組織の必要性を強調された点が心に残った。

東京理科大学工学部第一部経営工学科
教員募集

- (1)公募職種：助手(有期3～5年)若干名
- (2)職務：経営工学実験、ネットワーク演習、マルチメディア実験が担当できる方
- (3)応募資格：修士課程修了以上で博士の学位を持つ方または同等の研究教育能力を有する方(博士号取得見込みの方は指導教授の推薦状を提出)
- (4)採用時期：平成13年4月1日
- (5)提出書類：履歴書、業績リスト、主要論文別刷り(コピー可) なお、経営工学の将来に対するビジョン、意欲的なメッセージ等がありましたら併せてご提出ください。
- (6)応募締切：平成12年12月15日(金)
- (7)書類送付先：
〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学工学部第一部経営工学科事務室
書留郵便「教員応募書類在中」と朱書き
- (8)問合せ先：
上記、経営工学科主任 教授 山本 栄
TEL 03-3260-4272 (内3527)
FAX 03-3235-6479
E-Mail sakae@ms.kagu.sut.ac.jp
- (9)その他：選考結果は推薦者または応募者にお知らせします。応募書類は原則として返却しません。

統計数理研究所
教員公募

- (1)公募人員・所属：
文部教官 助手1名・調査実験解析研究系
多次元解析研究部門
文部教官 助教授または助手1名・
領域統計研究系 自然科学領域研究部門
- (2)採用予定時期：2001年4月1日以降の早い時期
- (3)提出書類：履歴書、研究業績リスト、研究計画書、推薦書、他
- (4)応募締切：2000年12月20日(水)必着
※詳しくは下記までお問合せください。
- (5)提出先及び問合せ先：
〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 管理部庶務課人事係
TEL 03-5421-8707
FAX 03-3443-3552
ホームページ <http://www.ism.ac.jp/>
- (6)その他：選考結果については、応募者にお知らせします。選考後、応募書類は返却いたします。

【講演2】

「コニカ株式会社における戦略の方針管理の取り組み」

コニカ(株)KQM推進室／経営戦略室 課長 作田 稔氏

戦略の方針管理を経営体質の強化と革新のツールとして実践されている取り組みの実際について、特に戦略方針展開段階を主体とした紹介をしていただいた。

- 本当に全社が一丸となって熱心な活動がなされている様子が伝わってきた。

※どんなに優れたツールでも実践されなければ意味がないとの言葉に、最近、形式化で重大トラブルに至るケースが多いだけに、説得力があった。

藤原淑郎(元帝人)

2000年10月の入会者紹介

2000年10月17日の理事会において、下記のとおり正会員65名、準会員29名、賛助会員1社1口の入会が承認された。

(正会員)65名

○小林啓孝(慶應義塾大学)、○鈴木和典(ソミック石川)、○松分良雄(エー・エム・シー)、○山田秀紀・山田光敏(山田陽子P・C)、○加藤勇治(フーズテクノかとう)、○横井清孝(関西テプレコード)、○斎藤元一(エコ・プロジェクト)、○加地浩成(日本自動車研究所)、○塚田員之(明還)、○田辺貞雄(キャノン)、○中野次郎(豊田工機)、○麻生 治(キーパー)、○安藤利夫(山愛)、○阪下恭司(コアコンサルティング)、○武田憲司(古河電気工業)、○金子昌夫(内田洋行)、○井口新一(日本適合性認定協会)、○品田良一(工業技術会)、○阿部敏博(阿部行政書士事務所)、○中込惇・東川憲二・井上 明(ビューロ・ベリタス・クオリティインターナショナル)、○猿渡義彦(甲府日本電気)、○杉本満則(日本電気)、○丸田道男(マネジメントサポート)、○遠藤敏廣(筑波大学)、○由岐保(YUKI品質経営コンサルティング)、○谷森正夫(横浜管理システム研究所)、○志村 攻(テイケイ気化器)、○植木正典(オーディット)、○清水豊彦(東海染工)、○桑原清市、○館岡 登(日本マネジメント総研)、○山崎博昭(日本金属)、○谷津勲(バンドー化学)、○永岡一義(テイカ)、○竹中純志(チッソ)、○宮崎耕史(三和総合研究所)、○西岡興洋(ジャココ・トランステクノロジー)、○根岸正臣(日本信号)、○田中浩之(SKF自動車事業本部)、○小畠一孝・江繁輝雄・吉田雅宣(日産車体)、○鈴木達也(富士重工業)、○谷村和彦(竹中工務店)、○横沢俊一(YHCマネジメントオフィス)、○井上篤司(宇部興産)、○中島宣彦(日本科学技術連盟)、○岩岡 孝(高島屋日発工業)、○青木裕幸(ゼンリン)、○岡田正徳(竹中工務店)、○渡辺直己(ISO9000コンサルタント)、○植田正三・中島和美・服部 忍(豊田自動織機製作所)、○町田卓也(パイオニア)、○森猛(サンデン)、○富田幸利(静岡日本電気)、○梶 直樹ダニエル(エヌ・ケイ産業)、○佐野由明(旭化成工業)、○坂倉省吾(日本規格協会)、○戸谷勝美(山田製作所)、○杉谷浩成(住友電気工業)

(準会員)29名

○小笠原恵一・東 奉寿(武蔵工業大学)、○原 史隆・西浦 淳(東京理科大学)、○八重沢亨(東京大学)、○加藤芳教・谷本俊樹・木村 剛・小沢 勉・飯島 映・井上昌美・金 惺潤・栗野友明・小林四季・中村圭作・山宮亮太・永松正敏・矢島達之輔(早稲田大学)、○西村世井(パーミングハム大学)○野島 勇(群馬大学)○佐野夏樹(筑波大学)○高橋 郁・平野謙・金田 健・松本琢也・石崎文高・金子和巳・モハammad レザウル カリム・志村典孝(電気通信大学)

(賛助会員)1社1口

○サンデン株式会社(社長 牛久保雅美)

正会員：2639名 賛助会員：187社、211口
準会員：120名 公共会員：21口